

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、拡大している」

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
総括判断	拡大している	拡大している	→

（注）令和元年7月判断は、前回平成31年4月判断以降、令和元年7月に入ってからの下下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパーやコンビニエンスストアの販売額が堅調に推移するなど、拡大している。観光は、入域観光客数が増加するなど、拡大している。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど、改善している。

【各項目の判断】

項目	前回（平成31年4月判断）	今回（令和元年7月判断）	前回比較
----	---------------	--------------	------

個人消費	拡大している	拡大している	→
観光	拡大している	拡大している	→
雇用情勢	改善している	改善している	→

設備投資	平成30年度は前年度を上回る見込み	令和元年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	平成30年度は減益見込み	令和元年度は減益見込み	→
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	現状判断は、「上昇」超幅が拡大している	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年を下回っている	前年を下回っている	→
生産活動	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、沖縄振興策などを背景として景気が拡大していくことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、労働力需給の動向などについて留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「拡大している」

百貨店・スーパー販売額は、新規出店効果などから前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、新規出店効果のほか、中食が好調なことなどから前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、新規出店効果などから前年を上回っている。新車販売台数は、新型車効果などから前年を上回っている。中古車販売台数は、販売促進効果などから前年を上回っている。家電販売額は、前年を下回っているものの、引き続き4Kテレビなどは好調である。このように、個人消費は拡大している。

(主なヒアリング結果)

- 売り場改装による化粧品新ブランドが好調である。また、会員セールなどの販売促進により売上が伸びた。(百貨店・スーパー、中堅企業)
- 好調な消費マインドは続いており、共働きが増えたためか、中食(ファストフード、米飯、サラダ、麺など)や冷凍食品などの簡便商品が好調である。(コンビニエンスストア、中小企業)
- 4~6月は涼しく、制汗剤や日焼け止めなどの季節物商品の売れ行きが落ちている。インバウンドに好調の商品は、化粧品、風邪薬、息切れ・動悸薬、液体絆創膏などである。(ドラッグストア、中堅企業)
- 新車販売台数は増加しており、新型車効果である。最近はグレードの高い車種を購入する傾向もある。(自動車販売店、中小企業)
- テレビ、洗濯機、冷蔵庫が、引き続き、エコポイントなどから10年経ち、ちょうど買換時期であること、オリンピック前であることの影響、引越シーズンもあり好調だった。(家電量販店、大企業)

■ 観光 「拡大している」

入域観光客数は、外国客はクルーズ船の寄港数の減少などにより減少しているものの、国内客は個人旅行需要などにより増加していることから、全体では増加している。ホテルの客室稼働率は前年を下回っているものの、客室単価は前年を上回っている。このように、観光は拡大している。

- 4、5月期は、国内客が順調であった。5月は、宿泊人員数は全ホテル前年同月比プラスとなり平均で2桁の伸び。特に大型10連休となったゴールデンウィークは天気にも恵まれ予想より集客できて良かった。ゴールデンウィークだけでも単価を前年同期比8~10%のアップとなり全体的な底上げができた。(宿泊、中堅企業)
- 4~6月の宿泊人員数は、全ての月で前年を上回っており好調。また、各月前年を上回る単価設定を行ったことから、売上げベースでも前年比プラスとなったので景況感としても好調である。(宿泊、中小企業)
- 4~6月の宿泊人員数は、前年同月比で2桁の伸びとなり良好な状況である。ゴールデンウィークは、リゾートホテル及びシティホテルともに良く、今年は大型10連休となり旅行需要が増えたと思われる。(旅行、大企業)

■ 雇用情勢 「改善している」

有効求人倍率は高水準で推移している。新規求人数は、医療・福祉、製造業など多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数(新規求職申込件数)は前年を上回っている。このように、雇用情勢は改善している。

- 運転手不足はひっ迫状態。下げ止まり状態になっている。沖縄は観光が好調ということもあり、本土からの県内進出を含め小規模の観光バス業者が増えて、ここ数年は運転手の取り合いになっており、当社の熟練ドライバーも他社へ転職したケースもある。(陸運、中小企業)
- 人手不足は深刻で、賃上げで人材を確保しようとする動きが加速している。特に離島の宮古、八重山の人手不足は深刻で、受付の対応ができず予約を制限している状況である。(レンタカー、中堅企業)
- 大型商業施設の開業もあり、引き続き求人は増加しており、先行きも大手コンビニ新規参入もあるため、横ばいか多少増加する見込み。(求人誌出版、中小企業)
- 内定を出しても辞退されるケースが増えてきている。中堅社員が転職等でぬけてしまい、定年後の再雇用でなんとか人手不足を補っている。(建設、中堅企業)

■ **設備投資** 「令和元年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」31年4-6月期

- 製造業では、鉄鋼、食料品などで増加するものの、機械器具などで減少することから、全体では前年度を0.1%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、不動産・物品賃貸などで減少するものの、情報通信、卸売・小売などで増加することから、全体では前年度を38.1%上回る見込みとなっている。

- 工場の機械設備の更新により、設備投資は増加する見込みである(食料品、中小企業)
- 倉庫及び駐車場の整備により、設備投資は増加する見込みである(卸売、中小企業)

■ **企業収益** 「令和元年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」31年4-6月期

- 製造業では、食料品などが減益となるものの、鉄鋼などが増益となることから、全体では13.1%の増益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、建設などが減益となることから、全体では▲11.4%の減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「現状判断は「上昇」超幅が拡大、先行きは「上昇」超で推移する見通し」

(全産業) 「法人企業景気予測調査」31年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超幅が拡大している。先行きは「上昇」超で推移する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家、分譲で前年を上回っているものの、貸家で前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

- 公共工事前払金保証請負額(令和元年度6月累計)は、前年を下回っている。

■ **生産活動** 「緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる」

- 鉱工業生産指数は前年を下回っているなど、生産活動は緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる。